

## 日独学術交流シンポジウムにおいて上村指導教諭が発表しました

2018年9月6日に神戸大学人間発達環境学研究科において、日独学術交流シンポジウム2018「学びのデザインとwell-being」が開催されました。このシンポジウムの目的は、ドイツと日本で協同学習等の研究や関心を持つ研究者や実践者が交流を通してwell-beingに与える影響などを考えることです。日本とドイツの大学教員、学校教員、大学院生など、多くの方が参加しました。



このシンポジウムで上村指導教諭は「附属中等教育学校の協同学習の取り組み」というテーマで発表しました。自己の課題解決に向けた目標は他者の目標にもなり、協同して課題解決に向かうことがお互いの学習意欲や学習成果の向上につながることで、また、他者との関係性において自己存在の価値を意識することがwell-beingにつながることを発表しました。



上村指導教諭の発表に際して、森尾美月さん（5年生）が英訳をしました。上村指導教諭の発表後、ドイツの大学の先生方から多くの質問や感想が寄せられ、その都度、森尾さんが同時通訳者並みに英訳、和訳をしました。森尾さんの通訳がスムーズなディスカッションと議論の深まりを支えました。シンポジウム終了後、多くの参加者から上村指導教諭と森尾さんへ賛辞がおくられました。

